

## ヒナカマキリ

岡山県：情報不足

カマキリ目

*Amantis nawai* (Shiraki)

環境省：該当なし

カマキリ科

## 選定理由

生息地の局限と、これまでの確認個体数の少なさから生息状況の詳細が不明であるが、近年の生息環境変化に伴い、存続が危ぶまれる。

## 存続を脅かす要因

森林伐採、林相変化

## 分布状況

県内では県南部の3カ所でわずかに確認されている程度である。新潟以西の本州、四国、九州、奄美および台湾などに分布。

## 生息情報

体長15～21mm。日本産のカマキリ科中最も小型で、翅は退化している。体色は褐色で黒褐色の小斑紋を散布する。主に照葉樹林などの林床に生息する。行動は活発で、落葉の上を徘徊するが、枝上にも見られる。卵のうは立木の幹のはがれかけた樹皮下に産付される。年1化で成虫は夏～秋に出現する。

## 特記事項

保護のため、分布情報図は非公開とする。

文献番号 84

(近藤 光宏)



撮影：奥島 雄一



## ウスバカマキリ

岡山県：情報不足

カマキリ目

*Mantis religiosa* (Linnaeus)

環境省：該当なし

カマキリ科

## 選定理由

河川に形成される豊かな生物相に依存する種であるが、開発や植生遷移のために、極めて不安定な生息状態に陥っている可能性が高い。

## 存続を脅かす要因

河川開発、川相変化

## 分布状況

県内では、県中部及び県南部から確認されているが、個体数は少ない。

北海道、本州、四国、九州、沖縄、国外では朝鮮半島、インドなどに分布するが、西日本南部では産地は局地的である。

## 生息情報

体長50～60mm。体色は淡緑色または淡褐色。近似種とは前肢基部の内側に栗色の楕円形の斑紋があるので容易に区別できる。河川敷など明るく開けた草原に生息する。年1化で成虫は夏～秋に出現する。

文献番号 51, 53, 150, 181

(近藤 光宏)



所蔵：倉敷昆虫館

